

訪問日：2025年2月26日（木）15：00～16：30

訪問者：鎌田達夫・田島泰治・森隆一

訪問先：株式会社ファーストコンテック 荻野智也氏

場所：千代田区丸の内 新東京ビル4階

< 1. 熊谷組時代について >

Q：熊谷組に入社した経緯をお聞かせください



訪問先の荻野氏

私が熊谷組に入社するに至った背景は、単なる偶然や流れではなく、家族や自身の思い出、そして業界に対する熱意が深く影響しています。実は当初「仮称 TK*¹」という名前の会社に内定をもらったというエピソードがあります。

2004年10月、大学4年生の時に内定式が行われたにもかかわらず、その会社は11月15日に経営統合が白紙になりました。友人たちから「お前、内定がなくなったぞ」と言われ大変驚きましたが、今では笑いながら入社時のエピソード

として話せるようになりました。この体験は、当時の

混乱と共に、建設業界の厳しさを肌で感じるきっかけとなりました。さらに、私の父親が鳶の会社を経営しており、家業の背景が私の中に強く根付いていたことも、熊谷組への入社を後押しする大きな動機となりました。学校や教授、ゼネコン関係者からの推薦や期待もあり、父の影響と業界への興味から「建設業で自分の居場所を作ろう」という強い思いが芽生え、結果として2005年4月から入社する決断に至りました。

*1は飛島と熊谷の合併する予定だった新会社

Q：熊谷組入社後の経歴についてお聞かせください

熊谷組に正式入社してからの私のキャリアは、決して一筋縄ではいかない現場の厳しさと、同時に成長と学びに満ちた道のりでした。入社し5月に現場配属になるまでの間、当時本社で技術系新入社員研修を担当していた上田現社長のもとで基礎を学びました。研修後は、首都圏支社の横浜に配属され、早速現場での実戦に身を投じるようになりました。

最初の現場は、上永谷にある100億円規模の大規模マンションプロジェクトで、タワー棟のコンクリート担当と、低層棟のSRCも担当したのですが、何も分からない状態の中、先輩達の厳しくもあたたかい指導の元OJTを中心に学んでいきました。その後マンション案件に多く携わり、10年ほどにわたるマンション現場では、仲間たちと現場の最前線で汗を流しながらも、先輩たちの厳しい指導の中で、徐々にスキルを身につけていき、現場をまとめるような仕事も少しずつ任

せてもらえるようになりました。

また、マンション以外にも、工場、病院、ホテル、そしてDタワーと呼ばれる大型プロジェクトでは特殊な低酸素室や高地トレーニングが可能なプールやトレーニング室などに携わらせてもらいました。その中で現場全体をまとめる責任とやりがいを経験しました。その後、単身赴任が3年続く中で、千葉での超大型倉庫プロジェクトにも携わり、その現場の所長のはからいで新聞に「荻野智也副所長の機転より」と名前が掲載されるほど、現場での判断力とリーダーシップが評価されました。



(インタビュー風景)

Q：熊谷組在職時代印象深い出来事をお聞かせください

現場一つ一つにそれぞれ深い思い出がありますが、Dタワー現場の経験は思い出深い仕事でした。大規模な現場ならではの緻密な工程管理や、各担当者との連携、そして一度のミスが大きな損失につながるというプレッシャーの中で、仲間とともに達成感を共有した体験は、自分のブレイクスルーポイントとして誇りにしているエピソードです。こうした経験は建設現場の厳しさだけでなく、その分だけ成長を実感できる貴重な時間でした。

< 2. 現在のお仕事について >

Q: 会社のお仕事の内容について教えてください

ファーストコンテックという会社は人材派遣の会社になります。ゼネコン等に人材を派遣しています。創業が2020年でまだ4、5年ですが、去年と一昨年で60人〜80人の新入社員が入って現在250人くらいの規模です。派遣と言っても一般の派遣ではなく常用型派遣ということで全員ファーストコンテックの正社員ということになります。現在は9割が建設業対象ですが、IT関連にも派遣しています。

おかげ様で大手ゼネコン6社には派遣していますが、熊谷組にはまだです。K&Eさんには前向きに捉えて頂いています。新入社員は建築の学校を出た人ではなく、会社で教育して資格取らせて派遣します。私も今年から施工管理技士の資格を週1回半年間講師として教えています。大手建設会社はずっと人手不足で、竹中工務店では文書で見込みある人を紹介してくれたら、うちで研修中の給与を払って半年間育てますと、言ってます。

また、立ち上げたばかりですが「請負工事」をスタートし、ゼネコンからお仕事を頂き一次業者として、建具工事や内装一式工事も行っている所以他们の現場管理や精算業務を行ったりしております。

Q: ファーストコンテックに入られたきっかけを教えてください

人生2回目の厄年を迎えて家庭、健康の問題もあったのですが、10年後、20年後の自分の姿を模索する中で入社して約20年仕事一筋できたけども、もう少し広げていいのかなと考える中で、転職する気はなかったものの、自分の市場価値や強みを深掘りしようと思い登録だけしました。そのようなタイミングでファーストコンテックから声がかかりました。

各ゼネコンは、仕事はあるけど人がいないというのが現状で、大林組と派遣の繋がりです。会社の営業と大林組の営業が話していく中で、ファーストコンテックで仕事を請け負うことができないかという構想が持ち上がり、じゃあそういうことをできる人間を探そうということになり白羽の矢が私にたったとの事でした。

どんな事やってるのかを聞いた時に、このご時世で新卒の大学生を毎年60人も社員として採用している事や、そして新しい事業を通して経営というものにも興味あり、スタートしたばかりですが、建設業の許可も取得したのでこれからが楽しみです。

< 3. 最後に OB ネットワークへ期待することをお聞かせください >

ネットワークでいろんな人とつながりたいです。また、ネットワークを通じて、年配の先輩方から業界の知見やアドバイスを受けるだけでなく、自身も若手との交流を深め、互いに刺激し合う場としてOB会を活用したいと考えています。そのためにも若い方が入会しやすい環境を作りたいと考えています。「人生の先輩たちとの縦の繋がり」と、「同世代や若手との横の繋がり」そこ

に現場で得た知恵や経験を掛け合わせ、補完し合うことで、ネットワーク発展の一助になればと思います。



参加者で記念撮影

< あとがき : 森 隆一 >

派遣会社に転職されたということで一般的な派遣業務との認識でヒアリングさせていただきましたが、常用人材派遣事業を基盤としながら建設現場における人材育成や資格取得の支援、さらにはライフサイクルの変化に対応した働き方の提案等、今後の建設業界の課題解決を目指しているということ后感心させられました。

これまでの熊谷組での経験を活かされて、新しい事業（請負事業）に取り組まれているお姿を拝見し、頼もしく感じました。

< 訪問者の感想 >

< 鎌田 達夫 >

荻野さんは自分の息子と名前が一緒(智也)でしかも同学年、おまけに転職の時期もほぼ重なっており(息子は 16 年程務めた会社から一年程の人材派遣会社を経て昨年早々現在の会社に転職)、まるで自分息子の姿を見ているように錯覚してしまいます。今回お話しをお聞きし、熊谷組での豊富な経験が活かされて、新しい形態の事業のリーダーとしても道を切り拓いていってもらえる

ものと信じています。OB ビジネス・ネットワークの今後の興隆にも、中核となって活躍していただくことを期待しています。

< 田島 泰治 >

荻野さんのお話から、「飛島建設」との合併話があったなあ！と懐かしく、また、現場は「OJT」で熊谷マン！と自身の45年前の姿を思い出したりしました。派遣会社とお聞きして一般の登録型派遣と思い何うと「常用型派遣」を建設業対象に実施している会社であると知り、現代にマッチしていると感じました。ただ驚いたのは、建築系の学校卒業生でなく、文科系出身者を採用し、自社で教育し、施工管理士の資格を取らせているということでした。是非、荻野さんのこれまでの楽しかった経験、苦い経験を若手に伝えて建設業界を盛り上げてください。